

東京2020大会に向けた文化の取組について

資料11

平成30年5月28日
東京都生活文化局

1

これまで実施してきた
文化事業のさらなる
展開

- ・リーディングプロジェクト
(東京キャラバン、TURN)
- ・芸術文化の基盤的取組の推進
(東京芸術祭、六本木アートナイトなど)
- ・都立文化施設における展覧会・公演 等

2

民間等に対する
助成事業の実施

- ・Tokyo Tokyo FESTIVAL助成
 - 気運醸成プロジェクト
 - 市民創造文化活動
 - 海外発文化プロジェクト
 - 未来提案型プロジェクト
- 等

3

新たに展開する
象徴的なプログラム

- ・企画公募事業
- ・都民パフォーマーズコーナー 等

4

ブランディング
プロモーション戦略



The logo for Tokyo Tokyo FESTIVAL features the words "Tokyo Tokyo" in a stylized, handwritten-style font. The first "Tokyo" is in black and the second is in blue. Below this, the word "FESTIVAL" is written in a clean, blue, sans-serif font, with each letter separated by a small gap. A thin blue horizontal line runs across the width of the text.

○文化プログラムの認知度向上、
気運醸成を目的に、東京都が
推進する文化プログラム全体の
取組を「Tokyo Tokyo
FESTIVAL」と銘打ち、戦略的
にプロモーションを展開

Tokyo Tokyo FESTIVAL企画公募事業について

1. 事業趣旨

- 「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の中核となる目玉事業の創出
- 多くの人々の記憶に残る文化プログラムを構築するとともに、2020年以降の東京の芸術文化の発展に繋がる様々なレガシーを創出

2. 募集内容

○ 期待する企画内容

・インパクトある芸術創造

芸術文化都市東京を世界にアピールできるクオリティがあり、21世紀の芸術文化を牽引する挑戦を感じる。また、芸術性・話題性があり、国内外への発信力がある。

・あらゆる人々が参加できる

世代、国籍、障害などをこえ、だれでも参加できる。また参加の仕方やプログラムに工夫があり、参加者にとっても記憶に残る体験を提供できる。

・アートの可能性を拡げる

社会課題に向き合うことで、アートの新しい可能性を拡げることにチャレンジしている。また、アートの視点を活かしたユニークな社会に対する問題（課題）提起力・発見がある。

- 各企画の事業費：数百万円～2億円を超えない範囲（自己資金や協賛金等他の収入を含めた拡大が可能）



3. 応募状況及び今後の予定

- 応募総数：2,436件（うち、海外28の国・地域から114件 ※募集期間：平成30年2月1日から28日まで）
- 書類選考、プレゼンテーション審査を経て、2018年夏頃を目途に採択を決定・発表予定
- 採択された企画は、2019年秋頃から2020年9月までの間に実施（20～30程度の事業を想定）

「都民パフォーマーズコーナー」(場の開放事業) について

1. 事業概要

【概要】

- 民間企業等と連携し、自社ビル等の普段使用できない場や特別感のある場等を開放することで、都民の芸術文化活動の発表の場を創出
- 事業名を「都民パフォーマーズコーナー」、通称「トパコ」として開始

【目的】

- 誰もが文化プログラムに参加できる機会の提供
- 民間と行政が協力し、既存空間を新たに活用することにより、文化を通じたオリンピック・パラリンピック大会への気運を醸成



2. オープンイベントの開催概要及び今後の展開

トパコ(都民パフォーマーズコーナー) オープンイベント

日時 平成30(2018)年3月24日(土) 13時~17時

会場 渋谷マークシティ 1階

出演者 アマチュアの都民パフォーマー 8団体
●高校生ロックバンド ●マンドリン ●大江戸玉すだれ
●合唱 ●JAZZ ●キッズチアダンス など

MC 馬場 典子(フリーアナウンサー)

入場料 無料、出入り自由

主催 東京都、アーツカウンシル東京

来場者 約2,900人

- 公式HP (<https://www.topaco.jp/>)にて、発表機会を求める都民(アマチュア)の事前登録を受付今後、イベントの出演者候補として活用

- 企業等と会場提供の調整を行い、様々な発表の場を創出

- 事前登録された都民パフォーマーから参加者を調整し、毎年度3回程度イベントを開催



1 経緯

- ライブサイトは、大会の祝祭の雰囲気盛り上げ、都民・国民、世界からの来訪者を歓迎する都市活動プログラムの中核であり、都は、組織委員会と共同で実施
- 都は、基礎的な調査や、リオ大会・平昌大会中のライブサイトを通じた知見を蓄積し、組織委員会とともに、2020年に向けた検討を実施
- 今後、関係機関との調整を進めていくため、今般、都としての基本的な考え方を取りまとめた。

2 ライブサイトの概要について

(1) ライブサイトの位置づけ

- 競技会場外で、チケットを持つ人も持たない人も誰もがライブ中継を通じて競技観戦を楽しみ、大会の感動と興奮を共有できる場所
- 競技観戦以外にも、スポーツ体験、東京・日本の文化発信、大会パートナーの出展等を通じて多種多様な催しに参加できる場所

主な実施内容



競技のライブ中継



スポーツ体験



文化の発信



大会パートナー等の出展

(2) 都内のライブサイト

① 都が実施するライブサイト（詳細は右ページ3を参照）

- 都は、組織委員会と共同でライブサイトを実施
- 8か所を候補地として、今後、関係機関と調整

② コミュニティライブサイト（区市町村が実施主体）

- 組織委員会が検討中の、地方自治体が実施できる枠組み
- 区市町村の希望により実施できるよう、都が組織委員会や放送権者と調整

(3) 被災地でのライブサイト

都が、岩手県、宮城県、福島県及び熊本県において実施

3 都が実施するライブサイトについて

(1) 都内候補地の主な要件

過去大会の事例や、リオ・平昌大会に合わせて開催したライブサイトでの知見を踏まえ、東京2020大会時の実施に必要な要件を整理

- 大規模イベントが長期間実施可能な都内の公園・広場・公開空地等（利用可能面積5,000㎡以上）
- 都内及び都外からアクセスしやすいこと
- 日常的な人流・賑わいがある場所
- 会場確保の費用ができるだけ少ないこと
- 競技会場や文化等施設に近いなど、地域特性があること



(2) 8カ所の候補地

都立公園4カ所に加え、ターミナル駅周辺3カ所と臨海部を候補地として抽出各候補地により利用可能面積や、立地特性等が異なるため、それぞれの実施可否や実施規模、内容等を今後個別に検討していく

- 都立代々木公園
- 都立日比谷公園
- 都立井の頭恩賜公園
- 都立上野恩賜公園
- 品川新駅（仮称）前用地
- 池袋西口公園（東京芸術劇場前）
- 都庁都民広場
- 臨海部（青海地区等）

※競技会場が集積しているため、競技運営への影響を考慮し、実施場所や内容の検討を要する。

(3) 今後の主な検討事項

- 実施スケジュール
- 会場や地域特性を踏まえた実施内容
- 警備や暑さ対策など、安全で快適な環境づくり
- 大会パートナーや多様な団体との連携

4 今後の進め方

- 今後、関係機関と連携・調整し、実施内容等について検討
- 平成30年秋頃には、組織委員会とともに、都内及び被災地におけるライブサイトの基本計画をまとめる。